

## 新聞は親子の対話ツール、読めば読むほど学力アップ効果も

2011年度以降、小学校、中学校、高等学校で新学習指導要領が順次実施され、学校の授業に新聞が活用される機会が増えています。

今回の調査では、学校の授業に新聞が活用されることについて「よいことだと思う」「まあよいことだと思う」との回答は合わせて86.7%でした（図12）。新聞社が発行する子ども向け新聞や子ども向けページについては「子どもが新聞に関心をもつきっかけになる」（45.3%）、「子どもの勉強に役立つ」（43.0%）などの項目で高い評価を得ています（図13）。

また、子ども向け新聞や子ども向けのページは、小中学生と同居する839人のうち21.7%が、実際に家庭で読んでいますと答えています。どのように読んでいるかを尋ねると、「子どもがすすんで読んでいる」（36.8%）、「まず自分が読んで、子どもに教えている」（24.7%）、「子どもに読ませている」（24.2%）など、親子のコミュニケーションツールとして活用されている実態が見えてきました。

子どものころから家庭で新聞を読むことのメリット・効果は、文部科学省の調査<sup>※</sup>で指摘されています。

この調査では、親が新聞や本を読むように勧めている子ども

もほど、全国学力テストの正答率が高いことが明らかになっています。この傾向は、小学6年生、中学3年生ともに全教科で確認されました。

親から新聞や本を読むよう勧められている子どもの正答率は、そうでない子どもと比べ、小学6年生で17.1ポイント（国語B）～11.8ポイント（算数A）、中学3年生では14.8ポイント（数学B）～10.7ポイント（国語A）高い、との結果が示されています。

親が新聞で政治経済や社会問題に関する記事をよく読んでいるほど、子どもの正答率が高いことも報告されています。

子どもが小さいうちから継続的に新聞に触れることで、また、親が新聞記事について子どもとの間で積極的に話題にすることで、子どもの関心の幅が広がるのでしょう。その結果、興味を持ったテーマを自ら進んで調べるなど、学習態度が能動的になり、学力向上に結びついていることがうかがえます。

新聞社も今まで以上に積極的にNIE（Newspaper in Education）の重要性、効果をアピールし、子どもが読みたくなるようなコンテンツの充実、ページの拡充、デザインの工夫を図る必要があるでしょう。

（産経新聞東京本社 原井 成博）

※文部科学省委託研究「平成25年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」（国立大学法人お茶の水女子大学）、2014年

図12 学校の授業での「新聞の活用」の賛否

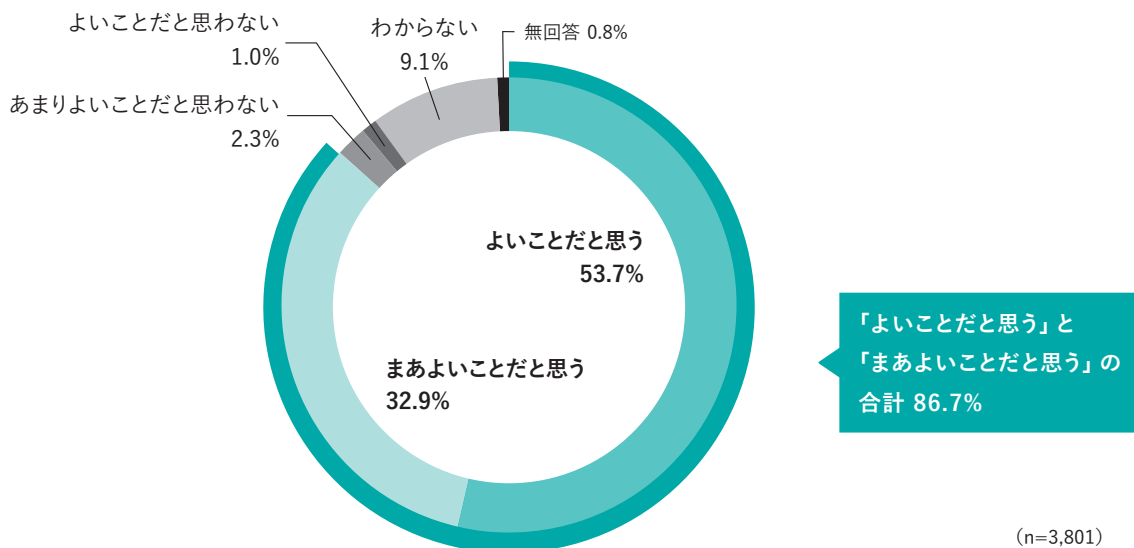
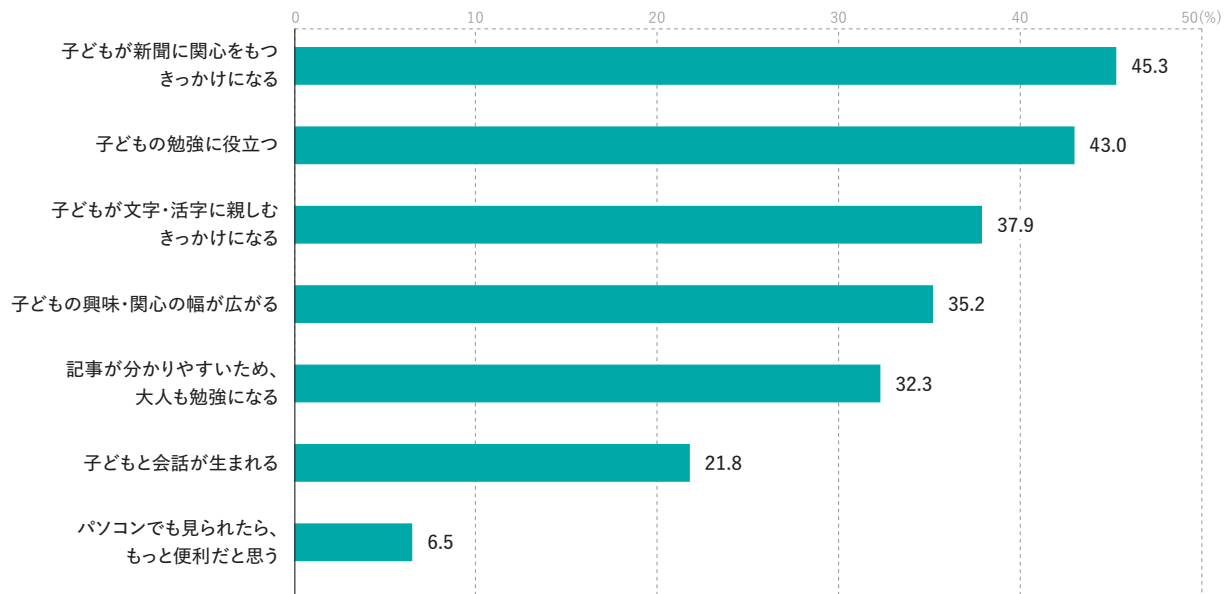
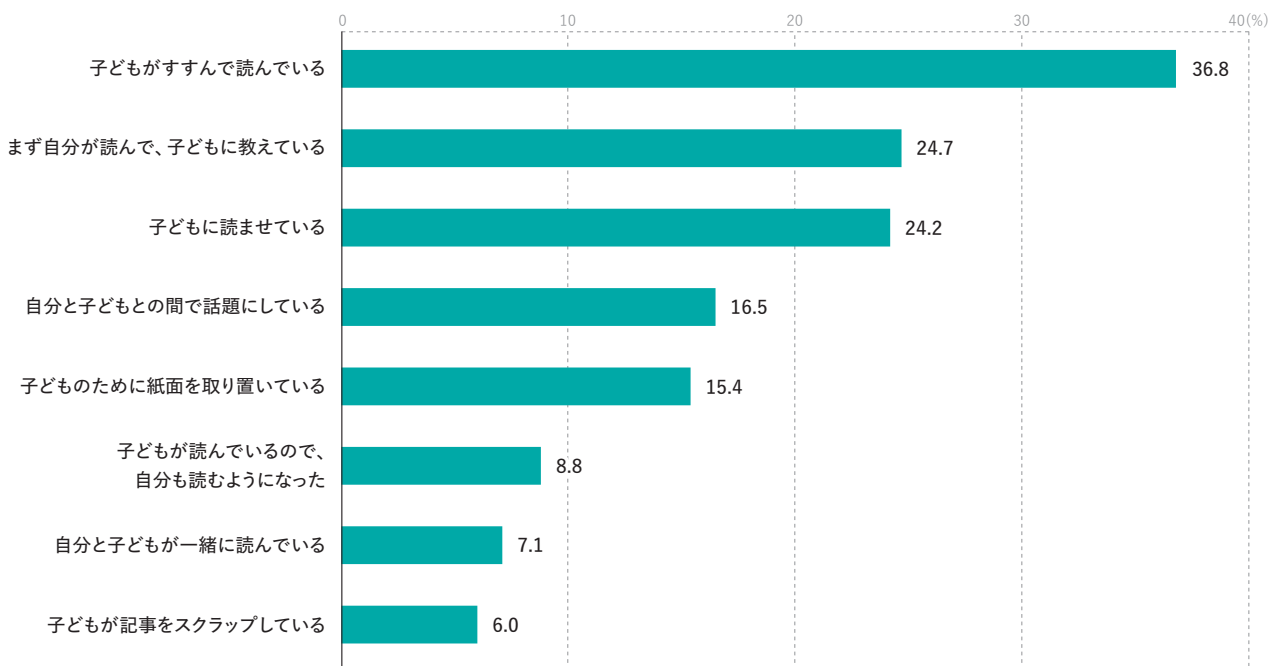


図13 新聞社発行の「子ども向け新聞」「子ども向けのページやコーナー」への評価（複数回答）



(n=3,801)

図14 「子ども向け新聞」「子ども向けのページやコーナー」の読まれ方（複数回答）



(n=182、小中学生と同居しており、家庭で子ども向け新聞、子ども向けページ・コーナーを読んでいると回答した人)